

2025年12月11日

京都市長 松井孝治 様

北山エリアの将来を考える会

京都府立植物園整備計画の見直しを求める会

(別称: ながらぎの森の会)

植物園の環境と景観を守る北区の会

北山エリアを考える府立大学関係者の方会

次期の京都市都市計画マスタープラン（地域まちづくり構想編）から「⑯北山文化・交流拠点地区」を削除する要望書

日頃は京都市の発展にご尽力いただき、ありがとうございます。

私たち4団体は、京都市の歴史的景観や環境を守り、世界文化都市としての持続的発展を願って活動しております。この7月より京都市都市計画審議会都市計画マスタープラン部会で検討されている「次期の都市計画マスタープラン」につきまして私たちの要望をお伝えしたく、この要望書を提出いたしますので、何とぞご高配のほどお願い申し上げます。

2020年12月に京都府は「北山エリア整備基本計画」を発表しました。キーワードは「躍動する祝祭空間」で、その目的は、植物園と府立大学、コンサートホール、総合資料館跡地などの間の境界をなくし、人々が自由に行き来できる回遊空間の形成でした。具体的には、植物園の垣根を取り払って周辺に商業施設やレストラン・カフェなどを作り、さらに府立大学（学生総数2000余人）キャンパス内にある老朽化している体育館の代替として1万人規模の商業アリーナを建設し、旧総合資料跡地にはシアター・コンプレックスとホテルなどが入るにぎわい施設を建設する計画でした（添付の整備基本計画のイメージ図参照）。

そもそも、この地域は都市計画上の用途地域指定を受けて、植物園や府立大学の部分は第二種中高層住居専用地域、高度制限は12mと20mの地域で、その周辺は第一種低層住居専用地域であり、アリーナやホテル等を建てることは出来ない地域です。ところが、当時の京都市都市計画審議会は、2021年4月に現行のマスタープランに「⑯北山文化・交流拠点地区」を補充しておられます。このなかには、京都府の北山エリア整備基本計画に描かれているイメージ図とほとんど同じ図が挿入されています。そのため、私たちは「⑯北山文化・交流拠点地区」をマスタープランから削除することを求めて、2022年と2024年に京都市長へ要請書を、2022年と2023年に市議会議長に同趣旨の陳情書を提出しています。

ところで、京都府の「北山エリア整備基本計画」にうたわれていた①植物園の開発計画に対しては 2023 年 3 月に「見直し案」が出され、②旧総合資料館跡地の利用については 2023 年 12 月に 2032 年までの暫定利用（住宅展示場やイベント広場、駐車場用地など）にするとされて実施されています。さらに、③2024 年 3 月には府立大学構内にアリーナを建てる計画は断念され、計画対象地は向日市になっています。こうして、「北山エリア整備基本計画」の主要な課題は全て見直されるか断念されました。今や実体のない計画になっています。

つきましては、現在京都市都市計画審議会でご検討中の次期京都市都市計画マスタープランから「⑯北山文化・交流拠点地区」を削除されることを要望いたします。

以上

追伸

私達の要望の趣旨をご理解いただくために、京都市都市計画マスタープラン（地域まちづくり構想編）⑯北山文化・交流拠点地区、京都府の「北山エリア整備基本計画」のイメージ図、および私たちが京都府に提出した「声明文」（2024 年 4 月）、ながらぎの森の会編『こうして京都府立植物園は守られた』（2025 年：かもがわ出版社）を同封いたしますので、ぜひお読みください。